

# 学生スポーツの話ではない。 これからの社会の話だ。

2020年スポーツ界の一大ムーブメント「スポーツを止めるな」。コロナ禍でアピール機会を失った高校生の進路開拓を支援するSNSプロジェクトから発展し、現在は一般社団法人「スポーツを止めるな」としてラグビー、バスケット、バレーなど12競技が連携して活動しています。今後は人財育成のプラットフォーム作りなどに着手。デジタルを駆使して学生スポーツの変革を志しています。コロナ禍を追い風に変えた代表理事3人が語る、「スポーツを止めるな」が描く未来とは？

**野澤** 今回の「スポーツを止めるな」活動を通じて、初めて各スポーツが繋がったと思います。コロナ禍に苦しむ学生を見て様々な競技のトップ選手が名乗りを上げてくれました。

**廣瀬** いま改めて感じることは、いろんな人が自分をここまで引き上げてくれたということ。コロナ禍でアピールできなくなった学生をなんとかしたいと思っていたので、デジタルを手段にした学生支援は素晴らしいと感じています。

**最上** 日本のスポーツ界に横串を刺したことで、我々のミッションも見つかりました。学生スポーツ界で「自らが考え、判断、決断、実行できる人材」をより多く育て、日本社会に送り出したい。

**野澤** 我々は一歩先がどうなるか分からない現実に生きています。そんな状況でも指示を待っているのではいけない。これからは自発的な人財を育てる必要があると思います。その絶好の機会である部活動をより良いものにしたい。

**廣瀬** 正解が見えるような時代ではない、と感じますね。自分で自分の正解を見つけて、「これが正しい」と思って動いていく人財が必要です。

**最上** 日本はこれから生産人口が減っていくので、

一人ひとりの能力を上げて戦う必要があります。一人ひとりが課題を見つけて解決できるようになれば、日本はまだまだ成長できると思いますね。

「スポーツを止めるな」は3つのコア活動を行っています。①「選手が安全にプレーをアピールできるシステム『Hands Up システム』の開発」②「トップ選手が本格的な解説・実況をつけてプレゼントする『青春の宝』プロジェクト」③「トップアスリートによる“生きる力”をつける教育プログラム」です。

**野澤** 「Hands Up システム」はクローズドな環境で学生がプレー動画を投稿し、次のステージで競技を続けるために自らをアピールするシステム。その競技が盛んでない学校、地域にいても、次のステージへ行くチャンスを平等に掴めるようにしたいという思いがあります。

**廣瀬** 強豪ではない公立高校(大阪・北野)の出身者である僕からすると、このシステムはとても嬉しいし、ぜひとも活用してほしいですね。自分のプレー動画をみずから編集するアクションもあれば、これからの人生に役立つと思います。

**最上** これから子供が減っていく中で、「Hands Up シ

ステム」で一人ひとりの力をしっかり見てあげられる環境を整えたいですね。

**野澤** 2つ目の『青春の宝』プロジェクトは、学生チームの思い出の試合にプロ選手が実況・解説をつけてプレゼントする企画です。

**最上** すでにバスケット、バレーなどで実施していますが、2023年までの中期目標として、この「青春の宝」プロジェクトを47都道府県で実施していきたいと思っています。

**野澤** 3つ目の『教育プログラム』は“現代を生きる力”をつけるための教育プログラム。現代的なテーマである「リーダーシップ」「メディアリテラシー」などの授業をトップアスリートから学生たちに伝えてもらう。

**廣瀬** いろいろなアスリートに参加して頂いて、それぞれの環境を最大限に使いながら、この活動をより多くの人に届けていきたいですね。

**野澤** この活動で最初に掲げた行動原則は「利他心」。「スポーツを止めるな」の主役はあくまで学生アスリートです。学生時代に部活動から良いバトンをもたらした方は、ぜひそのバトンと一緒に次世代に渡しましょう。学生スポーツを変えることで、日本の社会を変えていきたいと強く思います。

# #スポーツを止めるな



最上 純太  
コミュニケーションプロデューサー  
共同代表理事

廣瀬 俊朗  
元ラグビー日本代表  
共同代表理事

野澤 武史  
元ラグビー日本代表  
代表理事

一般社団法人スポーツを止めるなでは、学生スポーツの未来を支える想いに共感して下さる方々からのご寄付を募っています。詳しくはこちらのHPをご覧ください。

一般社団法人  **スポーツを止めるな**

